

# 東京学芸大学 養護教育講座

## シンポジウム 「いのちの大切さを考える教育」

東京学芸大学 養護教育講座では、子ども未来プロジェクトと共催で「いのちの大切さを考える教育」というテーマのシンポジウムを開催します。

### シンポジウムの趣旨

これから教員になろうとする学生、現在、教諭あるいは養護教諭である者にとって、人間の生命や生と死について、子どもたちにどのように教育するかは、重要な課題になっています。保護者やいろいろな場で子どもにかかわる大人や一般の方々の関心も高いと思われます。

すでにいくつか「いのちの教育」「いのちの学習」の実践が行われていますが、私たちにとっては未知の領域であり、授業実践などもまだ模索の段階であるように思われます。そのほかにも、生命倫理やがん、難病など重篤な病の体験の語りなど、さまざまなアプローチが可能なのではないのでしょうか。

そこで、人間、とくに子どもたちのいのちや生死に関わって仕事をされている方から、「いのちの大切さを伝える教育」についてのお話を伺い、まず大人である私たち自身がこのことを深く考えるきっかけや教育・学習を行ううえでのヒントを得たいと思っています。シンポジストによるご講演を拝聴いただいた後、自由な意見交換を企画しています。

シンポジウムは以下の日程で行います。

「いのちの教育」に興味のある、学生、教諭、養護教諭、子どもにかかわる大人や一般の方々の参加をお待ちしております。是非ともご参加ください。

参加費は無料です。

**2月21日(土) 13時～16時 東京学芸大学 C103教室**

### シンポジスト

**笹原 和子 先生(福島県立磐城桜が丘高等学校 養護教諭、文部科学省 児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議委員)**

現役の養護教諭として、また文部科学省の委員としてご活躍なさっている立場から、現代の青少年の現状と「いのち」の重さについてお話いただきます。

**小松 良子 先生(東京都江戸川区立鹿骨小学校 副校長、東京生と死を考える会・死への準備教育研究会運営委員)**

養護教諭としての長い経験勤務経験のなかで実際に行われた「いのちの学習」を紹介しながら、現代の子どもたちの「いのち」の教育に関する課題をお話いただきます。

3月7日(土) 13時～16時30分 東京学芸大学 C103教室

シンポジスト

藤井 あけみ 先生:千葉県子ども病院 チャイルド・ライフ・スペシャリスト

チャイルド・ライフ・スペシャリストという専門家として、日頃子どもの生と死に接しておられる立場から、たくさんのヒントを頂戴します。また、学校での「いのちの教育」についてのお考えやアイデア、ご意見等を伺います。

<sup>まいえ</sup>真家 年江 先生:臨床教育研究所 がん患者生活コーディネーター

自らの難病とがんの体験をもとに得られた叢智をお話いただきながら、現代社会においてよりよく生きること、よりよく死ぬことという観点から「いのちの教育」についてのお考えやアイデア、ご意見等を伺います。

チャイルド・ライフ・スペシャリストとは、病気を持つ子どもの闘病生活や、慣れない病院生活における子どもの精神的負担をできるかぎり軽減し、こどもの成長を支援する専門職です。仕事の内容は、入院している子どもの遊びの支援、子どもの理解力に応じた病気の説明、治療における精神的支援、子どもとその家族の精神的支援などさまざまです。チャイルド・ライフ・スペシャリストは、子どもを「尊厳ある存在」ととらえ、心に寄り添い、子どもの目線に立つことを理念として1950年代北米を中心として発展しました。

藤井あけみ先生 代表 日本チャイルドライフ研究会 <http://claj.miz.jp/>

主 催: 東京学芸大学 養護教育講座 朝倉 隆司、竹鼻 ゆかり

問い合わせ先: 東京学芸大学 子ども未来プロジェクト

東京都小金井市貫井北町4-1-1

電話 042-329-7795